

三陸の海を放射能から守る

岩手の会

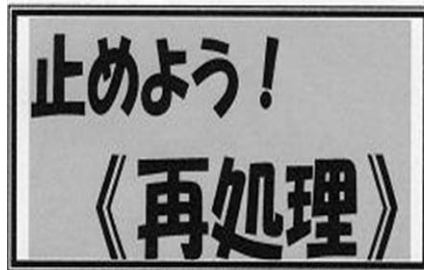
郵便振替 02240-5-102650

ホームページ《再処理 / 岩手の環境》

http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《まった再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag



《天恵の海》

2012(平成24)年

5月9日

第113号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636



桜が咲き始めた札幌中島公園

全原発が止まった! 急げ安全な日本へ

2012年5月5日、午後11時03分、泊原発は発電をやめ、6日午前2時頃には核分裂が止まりました。これにより日本の原子力発電所が全て止まりました。日本の電気は原発によらず、使用済み核燃料の更なる増出もゼロになった瞬間です。

しかし全てがこれからです。《核と地震におびえる日本》から抜けだし、《安全な日本》を創り上げましょう。

広瀬隆さんの講演 福島原発は未だ予断を許さない

報告と感想
大信田尚一郎



日本基督教団奥羽教区社会委員会の主催により作家広瀬隆さんの講演会が四月二二〜二十四日盛岡で開催されました。特に、印象に残った部分に焦点を当てて、私なりの理解で報告します。

第一日目は、福島原発事故の真相と放射能汚染の恐怖」というテーマでした。

地震によるパイプ破断

福島原発事故は、四号機まで未だ内部がどうなっているのか誰もそのぞくことが出来ません。もちろん、「収束」などとは到底言えない。

地震によって、まず原子炉建屋とタービン建

屋をつなぐ冷却系のいずれかのパイプに何らかの損傷が発生し急速に圧力容器内の高圧の水蒸気と水素が格納容器に充滿したと思われる。鉄塔の倒壊による停電で、非常電源が立ち上がる中で大津波に襲われました。

広瀬さんはメルトダ

ウンが急速に始まったことを推定しその裏付けとして約一七〇キロ離れたつくば気象研究所で採取されたテクネチウムについて触れました。沸点が四八七度もあるテクネチウムが発見されたということは原子燃料の崩壊熱がさまざまに散らばることを意味するといえます。

垂直に爆発した三号機

三号機の爆発についてのビデオ映像を示しました。垂直に爆風が上り高空に使用済み核燃料プールの部品や核燃料と思われる物体が舞い上がり落下してくるのを見ていました。大量の放射性物質が海に落下し地下からも汚染水が流れ出しました。国際的な海洋コンサ

ルディング会社作成の、太平洋に流れ出した放射性廃液の拡散シミュレーションが強烈でした。日本の太平洋岸から海流にのって東に広がり二月にはついにハワイにまで達しました。四号機使用済み核燃料プールの崩落が心配



4号炉建屋
広瀬隆著『第二のフクシマ、日本滅亡』
P130よ

今一番心配されているのが四号機の核燃料プールです。スリーマイル島原発事故調査にたずさわった原子炉技術者のアーニー・ガンダーセンさんは、もし四号機プールが崩落すれば、使用済み核燃料がジルコニウム火災を起こし強烈な放射性ガスが発生し、第一原発一帯は高い放射線量により人が近づけなくなる。未だ収束してはいない一〜四号機など、福島第一原発全体が再び危機に陥る可能性があります。一刻も早い対策が必要です。

すべての原発は止め、核燃料は海岸から高地に移せ

二日目の講演は「東北・三陸を壊滅させる六ヶ所再処理工場を即時閉鎖に！」というテーマでした。

大津波は必ず起こる

広瀬さんは、地震列島「日本」について、昨年の十一月の宮古講演の際に訪れた大津波被災地の見聞を交え地震と大津波のメカニズムを解説しました。

山田町防潮堤倒壊の様子や約一四〇トンといわれる摂待川の「津波石」の写真を示し、津波の破壊力のすさまじさを語りました。このような津波に対し原発はほとんど対策がないのです。

津波を予測していない

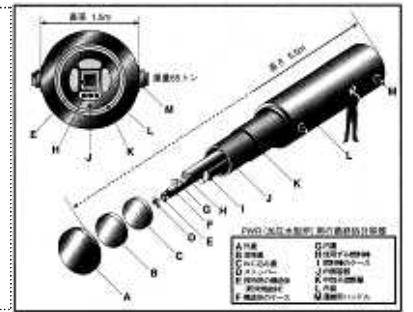
六ヶ所再処理工場

日本原燃は、六ヶ所再処理工場は海拔五五メートルの場所にあるので津波対策はしていない」としています。しかし、北海道大学の平川一

臣教授の研究によれば、下北半島の地層には過去千年の間に五回の巨大津波が襲った痕跡が明瞭に残っている。特に千島海溝で起きた大地震による巨大津波は北海道、東北の太平洋沿岸を襲いかなりの高さまで達したと言います。だから、六ヶ所工場付近の尾駮沼と鷹架沼を湾と考えると巨大津波が六ヶ所工場まで達する恐れが充分あると広瀬さんは指摘しました。

高レベル放射性廃液と使用済み核燃料の安全策を

原発や再処理工場をまず止めることです。しかし止めてもまだまだ安全にならないのが核施設です。使用済み核燃料は何百年も冷却し続けなければなりません。高レベル放射性廃液は液体状では危険だから何らかの形で固化しなければなりません。再処理から撤退した



ドイツが開発中の使用済み核燃料キャスク

ドイツでは、直接処分のための「使用済み核燃料保存キャスク」の開発が続けられています。このドイツの技術を参考に、日本でも早急に、放射能を閉じ込める「保存キャスク」を設計し、日本の工業力を挙げて大量に製造するべきです。そして海岸にある核燃料や核廃棄物を高所に移し安全化を図るべきです。

すべての大人が総学習し行動すべき時

広瀬さんの講演を聴いたあとの五月五日、子どもの日、日本のすべての原発が「稼働ゼロ」となり、日本の電気は原発によらないものとなりました。広瀬さんの一九八九年の編著作に『原発の止

まった日』(ダイヤモンド社)という本があります。

冒頭に、チエルノブイリと同じような事故が浜岡原発で起こった場合の空想の新聞が載っています。残念ながら、福島原発事故によって、空想の事故は現実になつてしまいました。「原発が止まった日」は希望か、絶望か、それが問題だ。」と広瀬さんはあてがきに書いています。

ここに至っても私達は希望の道を歩まねばなりません。日本列島に住むすべての大人が、原発神話」のウソを見抜く学習をやり抜き全力をあげて行動する時です。広瀬さんの最近の著作や推薦の本を挙げます。

- 『第二のフクシマ、日本滅亡』 朝日新書
- 『新エネルギーが世界を変える』 NHK出版
- 『福島原発事故の「犯罪」を裁く』 (共著) 宝島社
- 『推薦の本』
- 『福島第一原発―真相と展望』 (アーニー・ガンダーセン著) 集英社新書

広瀬隆さん 週刊朝日UST劇場へ出演

資源エネルギー庁の統計で夏の電力不足「キャンペーン」のウソ実証

『週刊朝日UST劇場』
http://www.wa-dan.com/hirose02

広瀬さんの用いた「資源エネルギー庁ホームページ」の「統計情報」統計表「一覧」を開いてみました。本年二月の統計が最新で、月間最大電力(一般電気事業者)の表の「関電の自社発電」には水力420万KW、火力1430万KW、原子力93万KW、他社受電は631万KW、揚水用動力」は空欄、総合計2578万KWとありました。「揚水発電」がないのですが、広瀬さんは揚水発電は488万KWは使えるといいます。「火力発電」は関電の「原電」は488万KWは使えないのです。予測供給力より微増しています。実際には「修理中」や「新設中」の火力発電所があり全力投球すればもっと伸びます。「他社受電」は二月に631万KWで広瀬さんの予測に近い。近畿地方の民間企業の自家発電はほとんど増設や新設が進んでいるといいます。「電力会社間融通」については私の見た表だけでは分かりませんでした。中部電力上越火力の天然ガス新型発電の稼働開始など、充分な供給力があると言います。「原発を止めたくない」だけのウソのキャンペーンはやめてほしい。(〇)

広瀬隆さんの関西電力の発電力計算
4月5日時点
管内の最大電気消費量
昨年夏8月9日、
気温 35.9 2784万KW
関電の実際の供給力試算

火力発電	1456万KW
一般水力	225万KW
揚水水力	488万KW
他社受電	670万KW
電力会社間融通	320万KW
合計	3119万KW

関電の言う供給力

火力	1415万KW
水力	460万KW
他社受電	522万KW
不足分	387万KW
合計	2784万KW

* 関電も昨年夏の最高値に合わせた数字を出した。